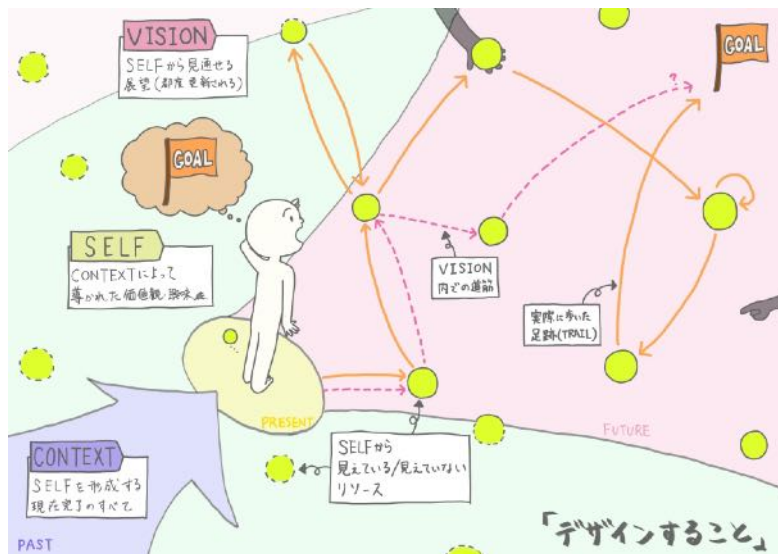




デザインの実践に向けて文化・科学の 叡智から各教科の学問的視座を広げる場 「Class」

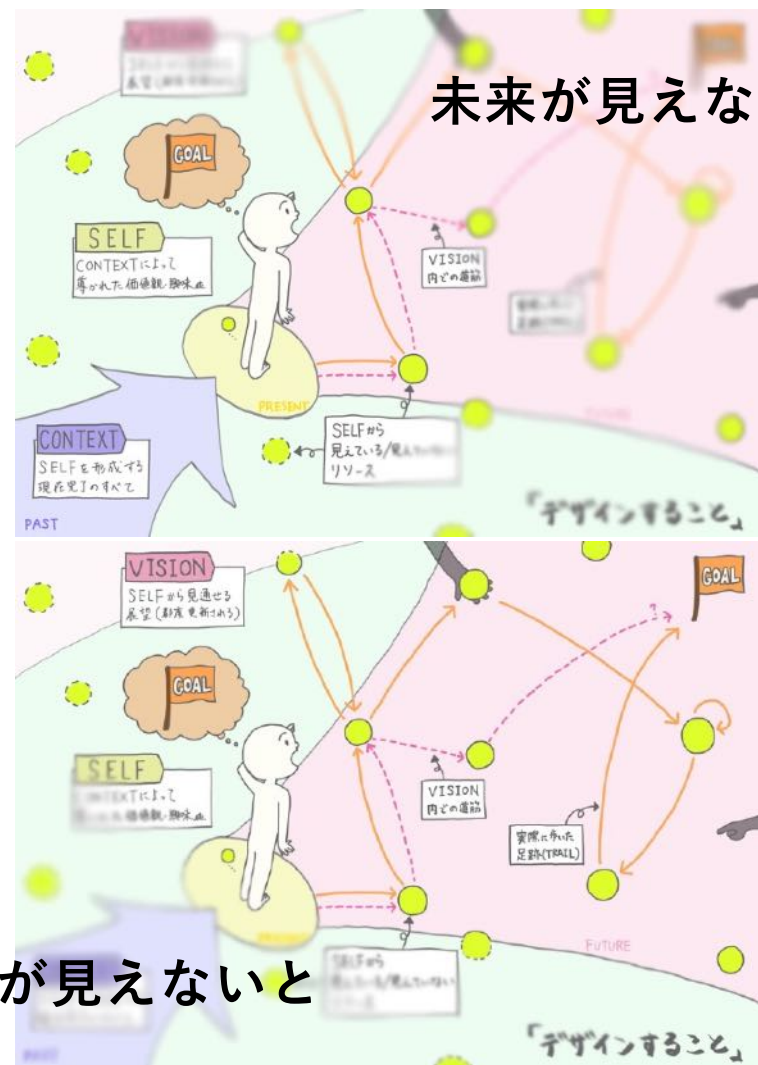
Class 検討委員会
東京学芸大学附属世田谷小学校
河野 宮田 大島 久保

「学びを自分でデザインする」ために



未来は～したくて、
これまで～してきて、
だから、今は、～するんだ！

過去が見えないと



未来が見えない

Classの機能

Class/クラス=教科学習

-子どもの経験世界を広げ、「デザイン」につなげる-

- 同じ学年のみんなで学習します
- 教科の先生の教室に行って学習します
- 学年を3つのクラスに分けて学習します
- 1、2年生は担当の先生と一緒に、生活から学習をつくっていきます
- 3年生以上は、「専科」の先生と、国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・家庭科・体育・英語を学びます



「デザイン」の実践につながる文化・科学の「見方・考え方」の拡張、基礎的な内容の定着、「学び方の学び」

学校における「学び」とは何か —「行為」から「参加」へ—

- 「学び」=「~ができる」という「行為」ではない
- 「達成できたか」「近づいたか」を評価
⇒学校の「当たり前」は本当に妥当か？
- 「個性」「共生」「多様性」⇒時代のキーワード



学びをデザインするための前提として
**汎用的スキルや
各教科の背景にある学問的視座**
(≡「見方・考え方」、「資質・能力」)
は必要になる

⇒Classでの学び

Classの時間数

学校教育法施行規則第51条
標準時数

世田谷区立小学校
世田谷9年教育

本校のClass
「学びを自分でデザインする」
子どもを育む学校の創造

別表第1 (第51条関係)

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳	特別の	外国語活動	総合的な	特別活動	総	
	国	社	算	理	生	音	図	家	体	外	特別の	外国語活動	総合的な	特別活動	授	
	語	会	数	科	活	楽	作	庭	育	国	授業時数	の授業時数	の授業時数	の授業時数	業時数	
第1学年	306		136		102	68	68		102		34				34	850
第2学年	315		175		105	70	70		105		35				35	910
第3学年	245	70	175	90		60	60		105		35	35	70	35	980	
第4学年	245	90	175	105		60	60		105		35	35	70	35	1015	
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35		70	35	1015	
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	70	35		70	35	1015	

	小 学 校						中 学 校		
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
日本語	34	35	35	35	35	35	35	35	35
国語	306	315	245	245	175	175	140	140	105
社会	—	—	70	90	100	105	105	105	140
算数／数学	136	175	175	175	175	175	140	105	140
理科	—	—	90	105	105	105	105	140	140
音楽	68	70	60	60	50	50	45	35	35
図面工作／美術	68	70	60	60	50	50	45	35	35
体育／保健体育	102	105	105	105	90	90	105	105	105
家庭／技術・家庭	—	—	—	—	60	55	70	70	35
生活	92	95	—	—	—	—	—	—	—
外国語活動／外国語	—	—	—	—	35	35	140	140	140
道徳	34	35	35	35	35	35	35	35	35
総合的な学習の時間	—	—	35	35	35	35	15	35	35
特別活動	34	35	35	35	35	35	35	35	35
合計	874	935	945	980	980	980	1015	1015	1015

区としての時数を定めつつ、各校の特色を重視する。

カリキュラム・マネジメントの必要性

- ・ Society5.0
- ・ デジタル・トランスフォーメーション (DX)
- ・ 持続可能な開発目標 (SDGs)
- ・ 地域に開かれた教育課程
- ・ 学習指導要領の改訂
- ・ 小学校の教科担任制

など

學年	C-Data										Students	Classes	Teacher		Manager	Total	Other	
	課程	科目	課程	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目								
1	標準時效	304	138	102	68	68	102	34				34					850	
	R4	271	121	0	91	60	60	91	0	0	0	0	0	0	186	959		
	科目數 標準時效 科目數	304		138	102	68	68	102	34				34		175	1025		
	科目數 標準時效 科目數	35	0	15	0	11	0	8	0	11	0	34	0	0	34	0	-156	0
2	標準時效	315	175	105	70	70	105	35				35					910	
	R4	284	140	0	93	62	62	93	0	0	0	0	0	0	156	910		
	科目數 標準時效 科目數	315		175	105	70	70	105	35				35		175	1084		
	科目數 標準時效 科目數	31	0	15	0	12	0	8	0	12	0	35	0	0	35	0	-156	0
3	標準時效	245	70	175	80	60	60	105				35	35	70	35		980	
	R4	229	62	160	80	53	53	93	0	0	31	0	0	67	156	980		
	科目數 標準時效 科目數	245	70	175	80	60	60	105				35	35	70	35	70	1173	
	科目數 標準時效 科目數	16	8	15	10	0	7	7	0	12	0	35	4	70	35	-156	0	
4	標準時效	245	90	175	105	60	60	105				35	35	70	35		1015	
	R4	187	73	151	93	53	53	63	0	0	11	0	0	124	156	1015		
	科目數 標準時效 科目數	245	90	175	105	60	60	105				35	35	70	35	140	1121	
	科目數 標準時效 科目數	58	17	24	12	0	7	7	0	12	0	35	4	70	35	-124	-156	0
5	標準時效	175	100	175	105	50	50	60	70	35		70	35				1015	
	R4	151	80	125	93	0	44	44	53	60	62	0	0	0	0	124	155	1015
	科目數 標準時效 科目數	170	90	142	105	50	50	60	70	35		70	35		0	35	140	1175
	科目數 標準時效 科目數	24	20	49	12	0	6	6	7	10	8	35	0	70	35	-124	-156	0
6	標準時效	175	100	175	105	50	50	60	70	35		70	35				1015	
	R4	151	80	140	93	44	44	49	62	62	0	0	0	0	124	156	1015	
	科目數 標準時效 科目數	170	100	157	105	50	50	55	70	70	35		0	35	140	175	1212	
	科目數 標準時效 科目數	24	16	35	12	0	6	6	8	8	35	0	70	35	-124	-156	0	
合計	1773	304	558	360	184	318	318	102	613	124	0	62	0	0	436	933	5786	
	1288	88	1569	456	478	478	478	118	309	8	1407	1206	-124	-156	-156			

いわゆる教科学習の時数を
HomeとLab.へ振り直す

- ・ 道德⇒Homeへ
- ・ 特別活動⇒Homeへ
- ・ 総合的な学習の時間⇒Lab.へ

「学びを自分デザインする」の 実現にむけて

Classの実際

新しい一日の生活は…

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:20~9:00	40分	Home (朝の会・Home活動)				
	10分					
9:10~9:50	40分	Class 教科学習 40分×4コマ×週5日 1・2年生：低学年総合 3～6年生：専科制（教員のいる教室に移動）				
10:00~10:40	40分					
中休み	20分					
11:00~11:40	40分					
11:50~12:30	40分					
12:30~13:50	80分	Home (給食・掃除・Home活動)				
	10分					
14:00~15:20	80分	Home 代表者会議	Laboratory		Laboratory	Home

1・2年生は、担任の先生といっしょに生活から学習をつくります（各教科の要素を埋め込む）

※校長先生・教員から見た、総合学習を通して育てたい力、体験させたい事柄

教科	総合学習を通して育てたい力	体験させたい事柄
国語	読解力、表現力、コミュニケーション能力	読書、発表、グループワーク
算数	数感、計算力、問題解決能力	計算ドリル、問題解決ゲーム
理科	観察力、実験力、観察力	観察、実験、観察日記
社会	社会性、協調性、リーダーシップ	グループワーク、発表、リーダーシップ
体育	運動能力、体力、協調性	運動、体力測定、協調性
音楽	音楽性、表現力、コミュニケーション能力	音楽、発表、グループワーク
美術	表現力、創造力、コミュニケーション能力	美術、発表、グループワーク
英語	英語力、コミュニケーション能力	英語、発表、グループワーク

本校各教科・領域部からみた総合学習を通して育てたい力と体験させたい事柄

Classでは、同じ学年の子と学びます。
1クラスは35人ほどです。
年に数回、メンバーを変えることを検討中です。

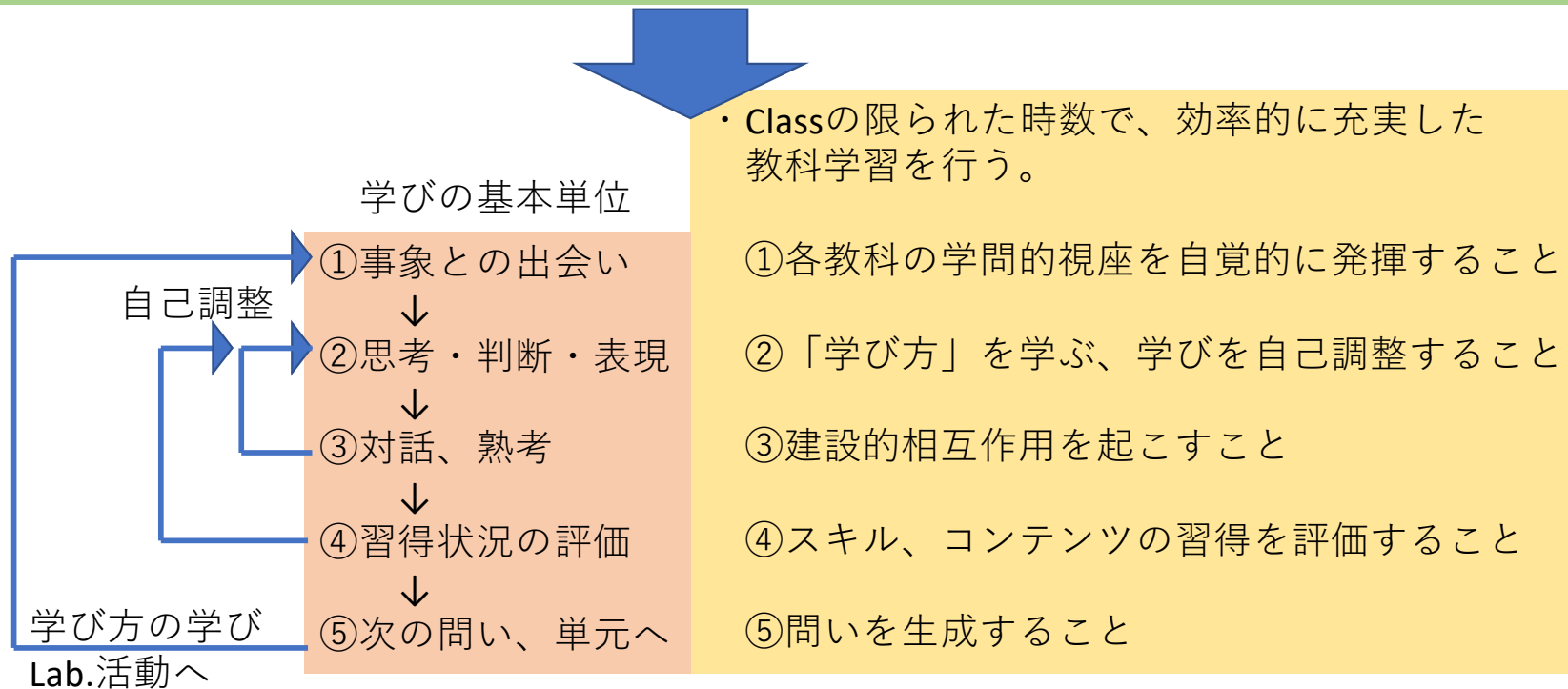


タブレットPCや教科書、ノートをなどを手提げバッグに入れて、Class毎に教室を移動します。



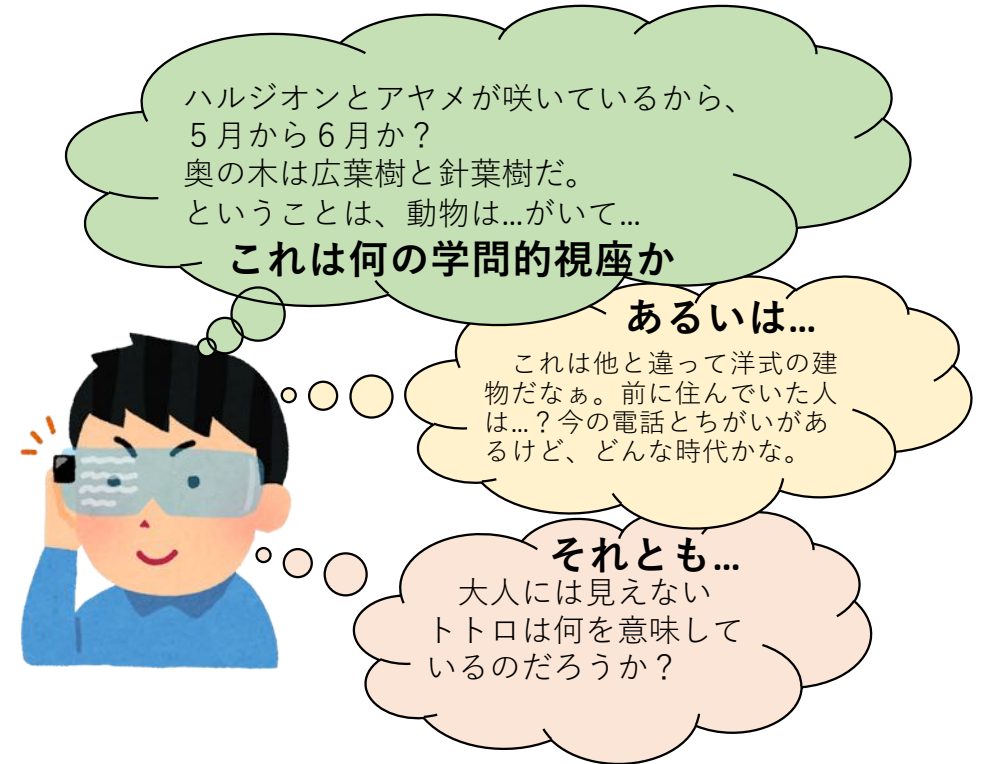
Classの要件

- Lab.Homeにおける「問いの発見」、「自立した探究活動」、「協働」などが学びのデザインに不可欠
⇒そのために必要な汎用的スキルや学問的視座（≒見方・考え方、資質・能力）は、Classで育成する。
※Lab.内でもこれらを発揮し、育てていく。



学問的視座（≡各教科の見方・考え方、資質・能力）とは？

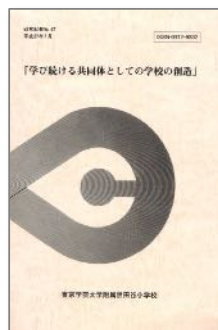
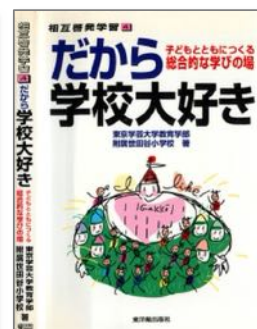
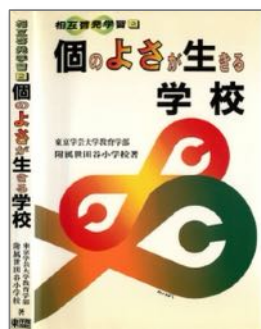
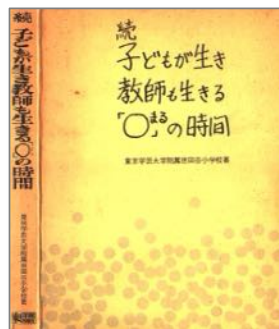
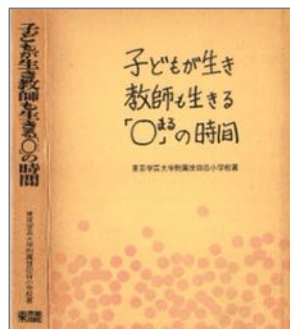
スタジオジブリ「となりのトトロ」より



学んだことを活かして、**自在に考えること**

「今、自分は**どんなタイプの学問的視座**に立っているか」

先人の知恵を生かしつつ、その先へ ～巨人の肩～



①各教科の学問的視座を自覚的に発揮すること

本校における各教科の見方・考え方は妥当か

⇐以前の校内研究にて、「自信」と「各教科・領域」の関係について考えた。
現研究の「学びを自分でデザインする」に「自信」は関係するはず。

今の規準で改めて問い直し、Classの時間を充実させる。

- ・各教科の学問的視座は【自在に発揮（他単元やLab.など）】できるものか。する価値のあるものか。
- ・各単元の本質的な問い、単元を貫く問いを吟味し、
何のために学ぶのか。何が育つのか。
各教科の学びの価値を全教職員で、検討し共通了解する。
- ・重複する**汎用的スキル・学問的視座**については、単元を削減・圧縮し、カリキュラム・オーバーロードに対応する。

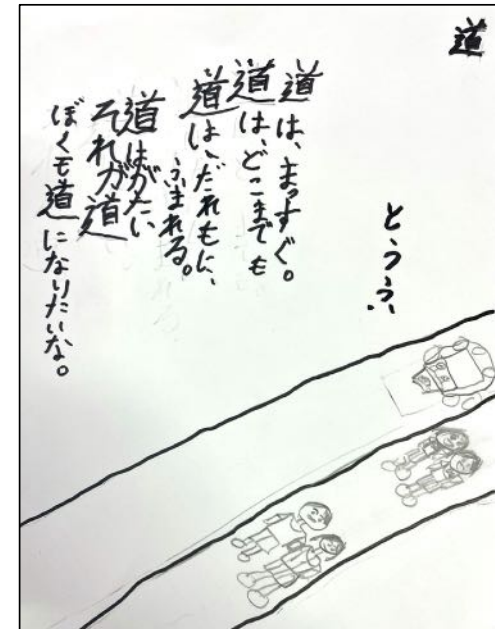
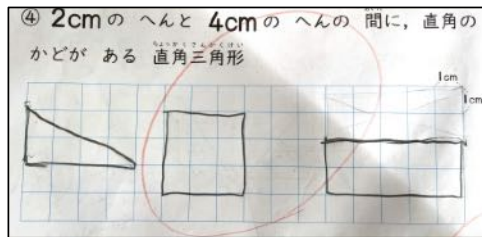
**例）国語科の説明文と理科の実験レポートにおける
論理的思考・表現の発揮は重複**



③建設的相互作用を起こすこと 対話が必要な授業か。

- 対話が問題解決に必要なようになるような授業構成を工夫する。
⇒全教科、全単元がやりがいのある、対話したくなるClass

※反復練習や暗記が必要な単元や内容もあるが、重点を置かない。
使いながら身に付けていく。



- ソーシャルスキルや向社会性の育成、ICT（広義の情報活用能力）スキルも、各授業に埋め込んでいく。使いながら習得する。

⇒週に1時間（年35時間）を
情報活用能力の育成にあてる。

各学年の目標リスト		
小学校：低学年	小学校：中学年	小学校：高学年
①タブレットの使い方を、自分たち、他人事務に活用する。 ②タブレットを使って授業や学習で活用することができる。 ③タブレットを使い、自分（自分たち、他人事務）の学習や生活で活用することができる。 ④タブレットを使って授業や学習で活用することができる。 ⑤タブレットを使って授業や学習で活用することができる。	①タブレットの使い方を、自分たち、他人事務に活用する。 ②タブレットを使って授業や学習で活用することができる。 ③タブレットを使い、自分（自分たち、他人事務）の学習や生活で活用することができる。 ④タブレットを使って授業や学習で活用することができる。 ⑤タブレットを使って授業や学習で活用することができる。	①タブレットの使い方を、自分たち、他人事務に活用する。 ②タブレットを使って授業や学習で活用することができる。 ③タブレットを使い、自分（自分たち、他人事務）の学習や生活で活用することができる。 ④タブレットを使って授業や学習で活用することができる。 ⑤タブレットを使って授業や学習で活用することができる。

⇒本校におけるH29教育の情報科推進事業（文部科学省）

情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

- ①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ②情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ③情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ④情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ⑤情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

- ①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ②情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ③情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ④情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ⑤情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

- ①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ②情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ③情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ④情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ⑤情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

- ①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ②情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ③情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ④情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ⑤情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

- ①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ②情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ③情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ④情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ⑤情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

- ①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ②情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ③情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ④情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ⑤情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

- ①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ②情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ③情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ④情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ⑤情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

- ①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ②情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ③情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ④情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ⑤情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

①情報社会の発展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解

④スキル、コンテンツの習得を評価すること どのように学ぶか。文化、科学に触れているのか

④剥落しないスキル習得の方法

学びに向かいたくなるコンテンツになっているか。

⇒これまでは、担任の専門性や個性によって工夫された探究的教科学習が学級単位で研究、実践されてきた。

⇒**一人一人が学びたいことを実現**できるように学習環境をデザインする。

⇒学びの真正さと「持続可能な開発目標（SDGs）」の関連



④習得状況の可視化（テスト）と支援

⇒スキルやコンピテンシーを可視化する。

各教科の授業にパフォーマンス活動を埋め込み、

「知っているか」「わかっているか」「できるか」を見取り、支える。
パフォーマンス評価の相互検討会を行い、教師の授業改善に努める。

ふりかえりテスト（校内）は、
瑣末な「用語の再生」より、パフォーマンスを評価する。

通知表、個人面談にも活用して
ご家庭と学校で共通理解をして、子どもの成長を支える。

第4問

Kさんたちは、10g、20g、30gの小球を用いて、振り子をつくりました。糸の長さを調節することによって、ようになっています。ここでいう振れ幅とは、振り子が振れる、50度を超えないようにするものとします。このことによ



(1) Hさんたちは、おもりの重さ、振り子の長さ、ふれはばという3つの条件と、振り子が1往復するのにかかる時間との関係について調べることにしました。ところが、3つの条件のうち、変えてもよいのは、1つの条件だけです。その理由を分かりやすく説明しましょう。

「振り子の周期は、糸の長さが関係する」
という宣言的知識だけでなく
「実験計画を適切に立てられる」

パフォーマンスも重要

⑤問いの生成 ClassとLab. Homeの往還

- ・教科学習を学ぶと、「さらなる問い」が生まれるときがある。

知ったから、「知らない」がわかる。

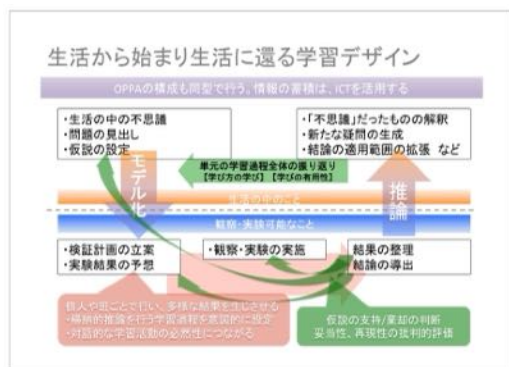
「もっと知りたい」

⇒真正な文脈で学ぶ（何のため？）と「問い」の生成を促す。

とはいっても...

学問的視座を自在に発揮することは難しい。

⇒ClassにLab.的要素を入れ、橋渡しを行うこともある。



ベンキョウ終わり！

やめていいよね？
次は何をしますか？

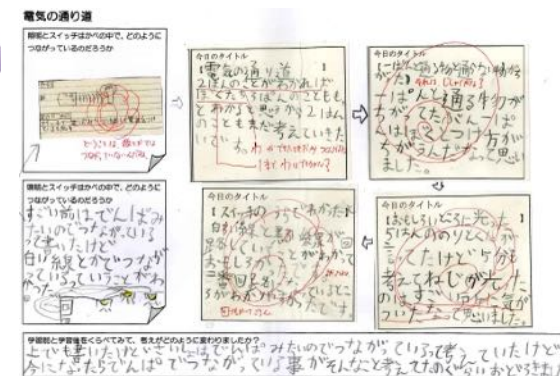
ものが燃えるには、
酸素が必要である。



より効率よく燃やすには？

効率よく燃やす必要性は何か？

2 「生活に始まり、生活に還る」実践事例3年「電気の通り道」



学びを自分でデザインするためのClassの学習環境

- 学びを自分でデザインするために以下をClassでは重視する。

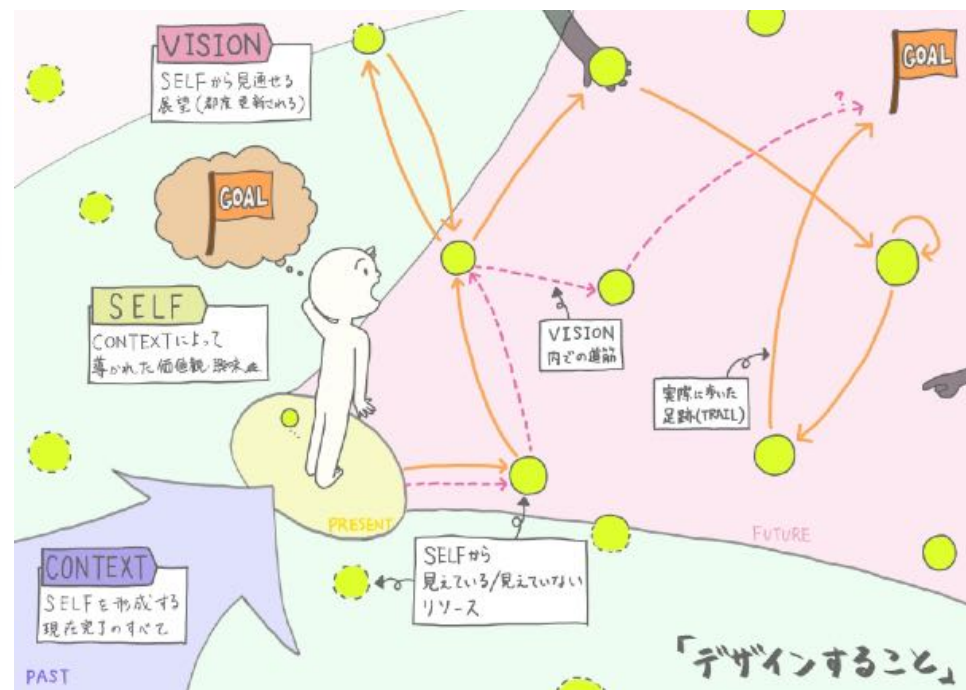
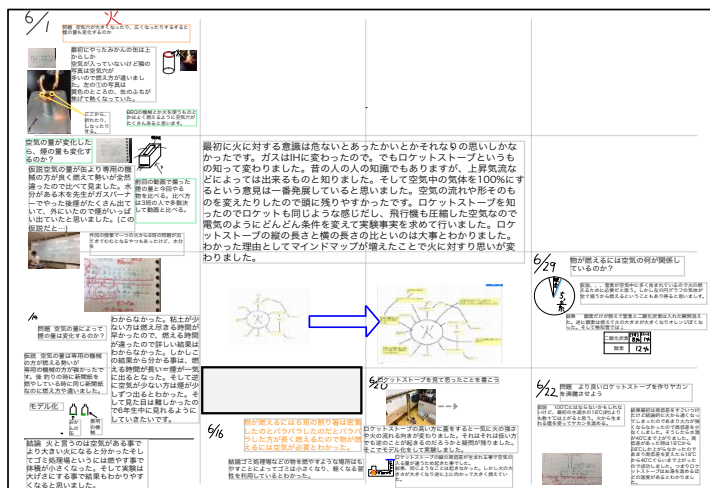


学習者が自己認識を深めること

⇒学習履歴の蓄積と活用が重要になる。

知を深化・拡張し、構造化し、使っていくこと

⇒Class、Home、Lab.のそれぞれの担当が
学習者の過去と未来に寄り添い、伴走することも重要になる。



未来は～したくて、
これまで～してきて、
だから、今は、～するんだ！

来年度に向けて

12/22 前述の「Classの要件」に従い、各教科部が1単元の詳細、1学年の年間配列を提案
⇒協議し、了解を経て、冬期休業中に他単元、他学年を作成

1月 各学年、各教科、縦横にスキルとコンテンツの関係を整理し、教科横断的パフォーマンス課題を作成
汎用的なスキル（情報活用能力など）も加える

2月 3・5週間想定で、単元の実際的配列

教科等	1学期	2学期	3学期
算数	異いものの重さのほかり方	重さのたんいはかり方	棒グラフと表
理科	自然の観察 ゴムや風の力	ものの重さを選べよう 光や音の性質 磁石の性質	ものづくり 「おもちゃショーを開こう」 電気の通り道
図画 工作	探究における表現の手段として関連		
音楽			
体育	リレーあそび ネット型ゲーム	表現づくり	ゴール型ゲーム
社会	わたしたちの大田区	わたしたちのくらしと安全 わたしたちのくらしとお店 くらしと工場	大田区のうつりかわり 昔の道具調べ
国語	もっと知りたい 友達のこと 本はともだち 図書館・図書室を使おう	【じょうほう】 全律と中心 はじめて知ったことを 伝えよう 【じょうほう】 利用するとき 【じょうほう】 気持ちを込めて 「見て」ください 【じょうほう】 コンピュータの 調べや学入力 【じょうほう】 科学読み物のまとめ方	【じょうほう】 つたわる言葉であそぶ これがわたしのお別れ入り【書】 わたしたちの学校じまん【前・期】
総合的な学習の時間	身近な疑問を 解決して伝えよう 問題解決	学校の人に、お家の人に伝えよう 【個人の探究と交流】	地域の人に伝えよう 【チームで探究】
行事 特別活動 学級活動	1年生を迎えるウィーク	学習発表会（学校公開）	海苔付け体験 海苔取り体験 もうすぐ 4年生
縦断的 道徳	努力と強い意志 「ばくら小きなにはかせ」	（情報モラル） 伝統と文化の尊重 「おばあちゃんのおせち」	個性の伸長 「自分を信じる心」

新年度、Classスタート